

# ひやま Walker Project

檜山教育局が主催する地域教育政策推進事業「ひやま Walker Project」の第2回全体会が、12月9日、檜山合同庁舎で開催され、学校関係者や振興局職員のほか、檜山管内の町長や教育長、観光協会の関係者など、約80名が参加しました。

同事業は、郷土の豊かな自然や歴史、伝統、文化、産業等の魅力を中高生の目線から見つめ直し、それを手作りの情報誌「ひやま Walker」としてまとめ、檜山内外に発信するもので、平成28年度から実施しています。9月に開催された第1回全体会では、各校の取組について中間発表が行われ、その後、地域への取材等を繰り返しながら情報誌の完成に向けて取り組んできました。

この日は管内7町の代表の高校生17名が、作成した情報誌の内容や取材等の取組を通して再発見した地域の魅力について発表しました。

## 上ノ国高等学校（上ノ国町）

上ノ国町を担当した上ノ国高校は、3学年の「課題研究」の授業で取り組み、「北海道発祥の地」として、「歴史」「祭り」「発祥地」の3部に焦点を定めて紙面を作成しました。

外国人観光客に町の歴史に興味をもってもらうコンセプトから英語表記にも挑戦し、観光協会の関係者からは、「インバウンドも視野に入れた視点は素晴らしく、実用的である」との評価を受けました。

## 江差高等学校（江差町・厚沢部町・乙部町）

江差高校は、江差町、厚沢部町、乙部町の3町を担当し、2学年の日本史Bの授業で取り組みました。

江差町のページは、江差町が今年4月に「日本遺産」の認定を受けたことから、北海道最古の祭りである姥神大神宮渡御祭や開陽丸等の歴史と文化に触れ、さらに、にしんそばや五勝手屋羊羹などの由緒ある食文化を取り上げました。檜山振興局の職員からは、「しっかりとしたコンセプトでまとまっている」との講評がありました。



厚沢部町の魅力を発表する江差高校生

厚沢部町のページは、館城がなぜ築城されたかの導入部で始まり、「豊かな自然と食物のシンフォニー」とテーマを定めたとおり、「食」関係で前井食堂や道の駅などの施設を取り上げ、厚沢部を代表する自然豊かな大地で採れ、生み出された「食」を紹介しました。流れが良く、まさしくオーケストラを感じさせる紙面とプレゼン内容に、参加者から絶賛の声が上がりました。

乙部町のページは、「五感で感じる食と自然を楽しむ町」を観光スポットと「食」で紹介しました。地元の中学生にアンケートを取ったり、たくさんの取材箇所を回ったりしたほか、紙面の構成や配色レイアウトを工夫するなど、見やすい紙面として参加者を感動させました。

## 奥尻高等学校（奥尻町）

奥尻町を担当した奥尻高校は、総合的な学習の時間を履修する生徒の中から有志3名が参加し、地元の中学生にアンケートを取り、おすすめ食と隠れスポットに絞って取材するなど、奥尻島の新たな魅力の発信に努めました。

観光協会の会長からは、「島の観光が夏に集中することから、春・秋にも何が必要なのかとの課題意識を持ったことに感銘しました」との感想をいただきました。

## 檜山北高等学校（今金町・せたな町）

檜山北高校は、今金町とせたな町の2町を担当し、ボランティア同好会が取り組みました。

今金町のページは、コンセプトを「祭り」「文化遺産」「新スポット」と定め、それぞれを今金中学校、今金高等養護学校、檜山北高校が担当し、3校が連携しながら作成しました。教育委員会の職員からは、「自然と歴史に絞り込んだ内容ですが、シンプルにコンパクトなまとめとなり、ある意味個性が出ていて良いと思いました」と感想が述べられました。

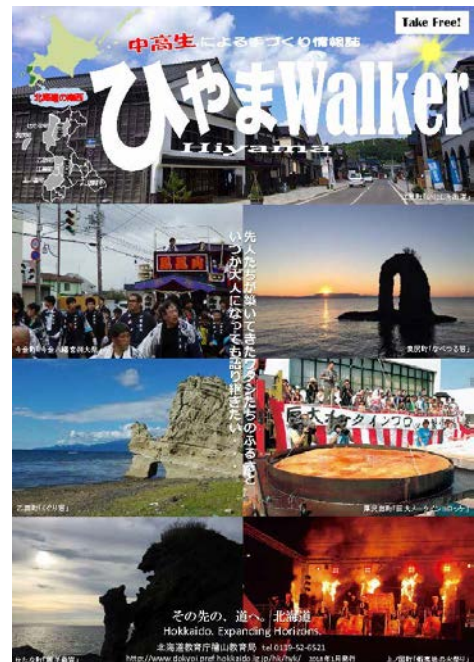
せたな町のページは、「祭り」「文化遺産」「パワースポット」に絞り、町内の中学校3校と連携しながら作成しました。観光協会の関係者からは、「紙面がとてもポップで高校生らしいかわいらしさが良いと思う」「記事のまとまりは良く、構成力も写真素材の有効活用についても総合的に出来が良い」などの感想が寄せられました。

## 地域に新たな価値を創り出す取組

全体会の参加者からは、「中高生のアイデアで手づくり情報誌に取り組みすることで、我が町への理解が深まり、発信にもつながる良い取組」「企画、取材、起稿、発表と幅広い経験のできる素晴らしい事業だと思います。高校生のスキルの高さに驚きました」「高校生にとって、自分の住んでいる町を知る、調べる等、貴重な経験は大きな当人の財産になるもので、素晴らしい企画であり、継続して取り組んでいただきたい」「次世代のリーダー養成が、中高生目線での情報発信としてよい取組であり、大人では気づけないところが多く、とてもよい」「若い人たちが自分の町を誇りに思い、暮らしていくことで、経済だけでなく、地域の活性化につながる」等、地域に新たな価値を創り出す中高生の取組に大きな期待が寄せられました。

「ひやま Walker」の発行は平成 30 年1月を予定しており、完成した情報誌は、管内の道の駅やフェリーターミナル、観光協会等の公共施設をはじめ、道南の空港や新幹線の駅等にも設置される予定です。

檜山の子どもたちが、北海道及び自分が生まれ育った地域の豊かな自然や歴史、伝統、文化、産業等の学習とそれらを発信する取組を通して、地域に対する愛着の心を醸成し、地域の発展を支える人材及び地域の魅力を発信できる次世代リーダーとしての期待が高まります。



中高生の手づくり情報誌「ひやま Walker」



「ひやま Walker」の作成に携わった代表の高校生と関係者

(檜山教育局教育支援課社会教育指導班主査 松浦 賢一)